

‘南柑20号’のジベレリン・ジャスモメート液剤処理と果皮障害

ジベレリン（GA）とジャスモメート液剤（PDJ）混用処理による浮皮軽減効果と着色および果皮障害の発生に及ぼす影響について調査した結果、クラッキング等の果皮障害を軽減する効果がみられた。

【試験区】南柑20号（みかん研究所内、28年生）
GA2ppm+PDJ2000倍（2017年9月1日処理）と無処理



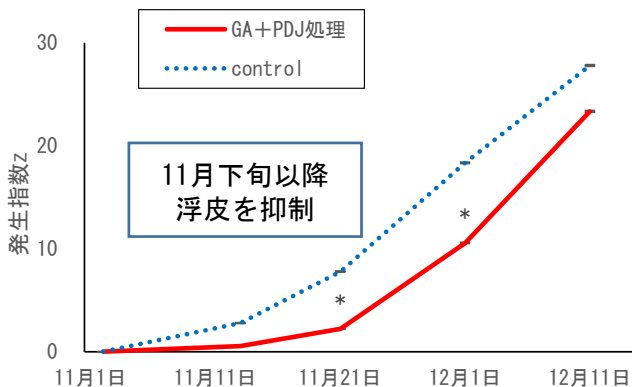
果皮障害



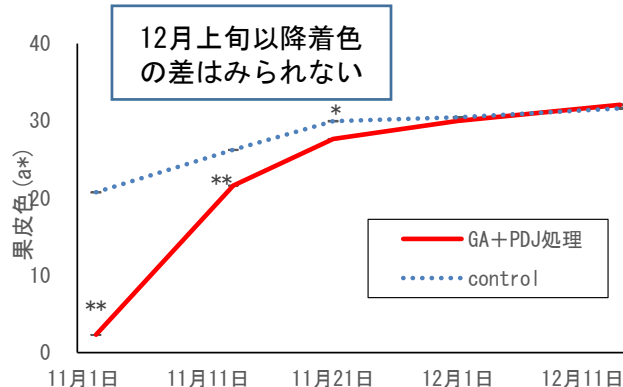
クラッキング

○GA+PDJ散布処理によって、浮皮軽減効果がみられた。
○着色が一時的に遅れるが、次第に着色が進行する。
○クラッキング等の果皮障害の発生を抑制する効果がみられた。

浮皮



果皮色



クラッキング

